

岐阜県の児童生徒における「医薬品について」のアンケート調査結果

日本学術振興会科学研究費補助金 事業

主任研究者：岐阜薬科大学実践薬学大講座病院薬学研究室教授 寺町ひとみ

研究分担者：岐阜薬科大学名誉教授 勝野眞吾

平成 20 年 3 月改訂の新学習指導要領では、医薬品に関する内容が中学校保健体育科保健分野に盛り込まれました。このたび、継続した調査としまして、岐阜市の小学校 6 年生および中学校 2 年生の児童・生徒、岐阜県内の高校 1 年生の生徒を対象にした「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識調査を行いました。ご協力いただきましたことをお礼申し上げます。以下にアンケート調査結果についてご報告いたします。

1. 回収数及び有効回答率

	学校			児童生徒						
	配布校	回収校	回収率(校)	配布人数	回収人数	有効回答率(人)	有効回答数(人)	有効回答率	性 別	
									男	女
小学校(岐阜市)	47	47	100	1432	1426	99.6	1424	99.9	716	708
中学校(岐阜市)	22	21	95.5	1433	1412	98.5	1398	99.0	713	685
高 校(岐阜県)	64	38	59.4	1407	1403	99.7	1399	99.7	597	802

小学校は岐阜市の 47 校 6 年生 1 クラス全員の児童を対象にした。中学校は同意が得られた岐阜市の 21 校 2 年生 2 クラス全員の生徒を対象にした。高校は同意が得られた岐阜県 38 校 1 年生 1 クラス全員の生徒を対象にした。

2. 児童・生徒における学校種別集計結果

(1)体調不良時の対処(複数回答)

(%)	早めに寝る	家で薬を飲む	家族に相談する	学校の先生に相談する	病院に行く	薬局で相談する	その他	無回答	小学生は、家族に相談するが 72.3%、中学生・高校生は早めに寝るが 65.7%、70.6%と一番多かった。病院に行くについては、小学生・中学生が 55.7%、52.6%に対して、高校生は 37.4%と少なかった。全体的に男子より女子の回答が多いが、特に家で薬を飲むについては高校生の女子が男子より多かった。	
小学生	61.4	64.5	72.3	13.3	55.7	3.0	5.3	0.2		
男	60.8	62.8	66.1	13.0	52.1	3.8	4.6	0.4		
女	62.3	66.4	78.8	13.7	59.5	2.4	6.1	0.0		
中学生	65.7	60.2	55.4	7.4	52.6	1.6	5.2	0.1		
男	66.5	59.3	48.4	5.5	51.9	2.4	5.0	0.0		
女	65.1	61.2	62.8	9.5	53.3	0.7	5.3	0.1		
高校生	70.6	60.0	46.5	2.6	37.4	0.6	4.6	0.0		
男	70.9	57.0	36.9	2.3	34.7	0.7	4.2	0.0		
女	70.4	62.3	53.7	2.9	39.4	0.5	4.9	0.0		

(2)医薬品の使用目的(複数回答)

(%)	腹痛	頭痛	下痢	かぜ	発熱	歯痛	アレルギー	酔い止め	その他	無回答	かぜや発熱の使用目的が小学生・中学生・高校生いずれも多かった。全体的に男子より女子の回答が多いが、特に酔い止めについては、女子が男子より多かった。女子高校生では腹痛、頭痛が男子より多かった。
小学生	32.6	43.0	14.2	78.6	77.2	5.3	42.7	34.9	7.7	0.2	
男	28.4	40.9	14.7	76.0	72.2	4.7	44.3	28.6	7.0	0.4	
女	37.0	45.3	13.8	81.4	82.3	5.9	41.2	41.4	8.3	0.0	
中学生	34.4	42.3	15.9	73.7	71.7	4.1	37.0	36.2	7.5	0.4	
男	32.0	41.2	18.2	73.4	68.6	3.4	34.6	29.7	6.7	0.3	
女	37.1	43.6	13.6	74.2	75.0	4.8	39.4	43.1	8.3	0.4	
高校生	42.8	42.8	16.8	68.0	66.6	3.5	33.2	28.9	6.0	0.1	
男	33.7	38.4	18.9	65.3	63.8	3.2	30.3	24.5	5.2	0.2	
女	49.6	46.1	15.2	70.1	68.7	3.7	35.3	32.2	6.6	0.0	

(3)医薬品の使用時における相談相手(複数回答)

(%)	両親・ 祖父母	兄弟・ 姉妹	友達	医師・ 歯科医師	薬剤師	学校の 先生	①	②	その他	無回答
小学生	92.2	6.0	2.1	27.0	10.5	4.2	13.8	7.3	1.0	0.2
男	89.9	5.0	2.4	26.1	11.2	4.7	14.5	6.3	1.8	0.4
女	94.6	7.2	2.0	28.0	9.9	3.7	13.1	8.5	0.1	0.0
中学生	77.9	3.4	1.7	29.0	10.9	2.1	15.9	14.5	0.9	0.2
男	72.4	2.2	2.1	31.1	11.6	1.4	16.3	16.3	1.0	0.4
女	83.8	4.7	1.3	26.9	10.1	2.8	15.5	12.7	0.9	0.0
高校生	86.6	2.7	3.4	19.7	5.4	0.8	11.7	16.9	0.4	0.1
男	83.2	2.5	2.2	18.8	6.0	0.7	12.7	15.9	0.2	0.3
女	89.0	2.9	4.4	20.3	4.9	0.9	11.0	17.6	0.5	0.0

相談相手では両親・祖父母が小学生・中学生・高校生いずれも多く、特に女子の方が男子より多かった。

- ①治療や予防のためにいつも飲んだり、使ったりしなければならない薬があるので、自分の判断で使う
- ②治療や予防のためにいつも飲んだり、使ったりしなければならない薬があるわけではないが、自分の判断で使う

(4)自己判断による購入経験

(%)	ある	ない	無回答
小学生	3.3	96.3	0.4
男	3.9	95.5	0.6
女	2.7	97.2	0.1
中学生	9.2	90.5	0.2
男	9.5	90.0	0.4
女	8.9	91.1	0.0
高校生	14.4	85.4	0.1
男	13.6	86.3	0.2
女	15.1	84.8	0.1

(5)友人からの譲り受け経験

(%)	ある	ない	無回答
小学生	6.5	93.1	0.4
男	5.2	94.1	0.7
女	7.8	92.2	0.0
中学生	8.7	91.1	0.1
男	6.9	92.8	0.3
女	10.7	89.3	0.0
高校生	21.4	78.6	0.1
男	8.2	91.6	0.2
女	31.2	68.8	0.0

(6)友人への譲渡経験

(%)	ある	ない	無回答
小学生	6.2	93.2	0.6
男	4.9	94.1	1.0
女	7.5	92.4	0.1
中学生	8.7	91.1	0.2
男	6.2	93.4	0.4
女	11.2	88.8	0.0
高校生	21.3	78.6	0.1
男	9.4	90.5	0.2
女	30.2	69.8	0.0

自己判断による購入経験、友人からの譲り受け経験、譲渡経験はわずかではあるが「ある」の回答があった。特に、女子高校生は男子より友人からの譲り受け経験、譲渡経験が多かった。

(7)医薬品の使用時における注意点(複数回答)

(%)	薬の注意書きを見る	いくつ飲むか確認する	いつ飲むか確認する	食事をしたか確認する	水で飲むようにする	体質を確認する	自分ではあまり気をつけない	その他	無回答
小学生	55.7	85.9	83.1	36.6	73.0	14.3	4.4	2.7	0.1
男	52.0	82.0	79.1	34.8	72.5	13.0	5.9	2.7	0.3
女	59.6	90.0	87.4	38.6	73.7	15.7	3.0	2.7	0.0
中学生	50.2	83.8	76.1	33.6	65.3	9.2	4.3	1.2	0.8
男	52.7	81.8	74.5	35.1	67.3	10.2	4.8	1.3	0.8
女	47.7	86.0	78.0	32.3	63.4	8.2	3.8	1.2	0.7
高校生	47.2	82.4	71.1	30.4	56.5	7.9	4.0	1.3	0.8
男	49.1	79.6	69.2	29.5	55.4	7.5	5.2	0.7	0.7
女	45.9	84.5	72.4	31.0	57.4	8.2	3.1	1.7	0.9

医薬品を使用する時には、小学生、中学生、高校生いずれも、いくつ飲むか、いつ飲むか確認するの回答が多かった。

(8)医薬品に関する用語の認識度(複数回答)

(%)	一般用医薬品	医療用医薬品	ジェネリック医薬品	かかりつけ薬局	お薬手帳	ドーピング	学校薬剤師	無回答
中学生	53.4	58.0	55.7	46.6	74.2	39.3	27.8	0.9
男	56.1	56.2	53.9	41.7	65.9	52.2	28.2	1.0
女	50.7	59.9	57.7	51.8	82.8	26.0	27.3	0.7
高校生	53.8	63.7	56.8	51.1	68.5	57.3	16.6	0.8
男	58.6	63.5	56.4	43.6	59.3	75.7	17.1	0.7
女	50.2	63.8	57.0	56.7	75.3	43.6	16.2	0.9

お薬手帳の認識度は中学生、高校生いずれも高く、特に女子の方が男子より高かった。ドーピングの認識度では中学生、高校生いずれも男子が高かった。

(9)医薬品に関する知識の理解度(複数回答)

(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
小学生	83.7	78.0	47.2	63.3	50.7				0.0
男	81.8	76.0	46.8	58.8	50.0				0.0
女	85.7	80.2	47.7	67.9	51.6				0.0
中学生	82.5	70.1	47.3	52.1	54.2	79.9	73.7	31.5	0.9
男	80.9	70.8	48.8	54.7	57.9	77.7	72.2	37.2	1.0
女	84.1	69.3	45.7	49.5	50.4	82.2	75.3	25.7	0.7
高校生	80.5	65.8	41.5	52.3	55.2	78.8	71.9	23.8	0.7
男	79.9	66.5	44.1	51.4	55.8	75.9	71.0	26.8	0.5
女	80.9	65.3	39.5	52.9	54.7	80.9	72.6	21.6	0.9

小学生、中学生、高校生いずれも、薬を牛乳やジュースで飲んではいけない場合があることの理解度が一番高かった。

※「知っている」と回答した割合

- ①薬を牛乳やジュースで飲んではいけない場合がある
- ②錠剤をガリガリかんで細かくして飲んだり、カプセル剤の中身を出して飲んだりすることは、よくない場合がある
- ③薬の飲み方の(食間)とは、食後2時間程度たってから飲む薬のことで、食事に飲む薬ではない
- ④かぜで病院へ行き、5日分の薬をもらって、3日で熱も下がり学校に行けるようになっても、残った2日分をすべて、飲まなくてはいけない場合がある
- ⑤ほとんどの薬には、副作用があるといわれている
- ⑥正しい量の薬を飲んで、すぐに効かない場合でもそれ以上の量の薬を余分に飲んではいけない
- ⑦定期的にもむ薬を一度飲み忘れたら、次に飲むとき、2回分をまとめて飲んではいけない
- ⑧市販の風邪薬には、症状を和らげる成分は入っているが、病原体を殺す成分は入っていない

(10)学校での医薬品に関する授業経験

(%)	ある	ない	わからない	無回答
中学生	26.3	19.8	52.3	1.6
男	29.3	19.6	49.2	1.8
女	23.1	20.0	55.6	1.3
高校生	31.0	19.5	48.0	1.4
男	39.4	19.4	40.4	0.8
女	24.8	19.6	53.7	1.7

医薬品に関する授業経験があると回答した割合は、中学生、高校生いずれも低かった。また、半数ほどの生徒がわからないと回答した。

(11)学校での医薬品に関する授業科目((10)で「ある」と回答した生徒)

(%)	中学校の保健体育	高校の保健体育	総合学習または学級活動	講演会	その他	おぼえていない	無回答
中学生: 367	40.1		33.2	55.0	1.1	12.8	0
男: 209	42.6		35.9	52.6	1.0	12.9	0
女: 158	36.7		29.7	58.2	1.3	12.7	0
高校生: 434	80.4	46.3	5.3	27.4	1.2	7.4	0.2
男: 235	80.9	50.2	6.0	26.4	0.9	5.5	0.4
女: 199	79.9	41.7	4.5	28.6	1.5	9.5	0.0

中学生の多くは講演会、高校生の多くは中学校の保健体育と回答した。

3. 生徒における「医薬品に関する授業」の有無と薬に関する用語および知識の関係

((10)で「ある」または「ない」と回答した生徒)

(1)医薬品の購入・譲り受け・譲渡経験

(%)	「ある」	「ない」	(%)	「ある」	「ない」	(%)	「ある」	「ない」
中学生			中学生			中学生		
ある: 367人	12.5	87.2	ある: 367人	9.0	90.7	ある: 367人	7.4	92.1
ない: 277人	8.7	91.3	ない: 277人	6.5	93.5	ない: 277人	7.2	92.8
高校生			高校生			高校生		
ある: 434人	17.5	82.5	ある: 434人	16.1	83.9	ある: 434人	16.6	83.4
ない: 273人	9.5	90.5	ない: 273人	24.2	75.8	ない: 273人	23.1	76.9

(2)医薬品に関する用語の認知度(複数回答可)

(%)	一般用医薬品	医療用医薬品	ジェネリック医薬品	かかりつけ薬局	おくすり手帳	ドーピング	学校薬剤師	無回答
中学生								
ある: 367人	58.3	62.9	58.6	52.0	79.3	40.6	36.0	
ない: 277人	51.6	57.8	55.2	46.2	72.6	37.2	24.5	
高校生								
ある: 434人	65.0	73.5	58.5	57.4	71.2	65.9	21.4	0.2
ない: 273人	56.0	65.6	57.9	49.1	72.5	56.4	13.6	0.0

(3)医薬品に関する知識の理解度(複数回答可)

(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
中学生								
ある: 367人	84.7	69.8	46.6	54.2	63.5	81.5	75.5	36.0
ない: 277人	83.0	69.7	50.2	50.5	53.1	80.5	71.5	31.4
高校生								
ある: 434人	84.3	71.4	50.2	54.6	62.9	83.4	76.3	30.9
ない: 273人	78.4	63.4	40.7	50.2	53.8	78.8	72.2	23.8

①～⑧は(9)と同じ

中学生は「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒の方が、薬品の購入・譲り受け・譲渡経験が「ある」と回答した割合が高かった。一方、高校生は「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒の方が、医薬品の譲り受け・譲渡経験が「ある」と回答した割合が低かった。中学生、高校生いずれも「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒の方が認知度、理解度について高かった。

4. まとめ

体調不良時の対処において、多くの小学生が家族に相談するに対して、多くの中学生・高校生が早めに寝ると回答しており、成長に応じた変化が見られた。また、医薬品の使用時には、多くの小学生、中学生、高校生いずれも両親・祖父母に相談することがわかった。医薬品の使用目的では、多くの小学生、中学生、高校生いずれもかぜ、発熱に対して医薬品を使用していることがわかった。自己判断による購入経験、友人からの譲り受け経験、譲渡経験はわずかではあるが「ある」の回答があり、特に、女子高校生が多かった。

高校1年生において、学校での医薬品に関する授業経験について「ある」が31.0%に対して、「わからない」が48.0%と多く、「ない」が19.5%であった。「ある」と回答した生徒では、医薬品の譲り受けおよび譲渡の経験が低く、医薬品の用語の認知度および知識の理解度が高いことがあきらかとなった。

今後、学校での「医薬品に関する授業」が効果的に実施されるよう大学の立場から情報提供およびアプローチをしていきたい。